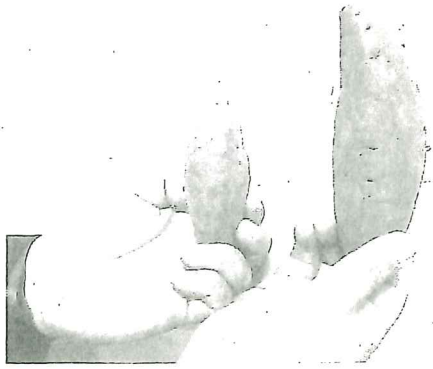


ミニサツマイモ 香港へ

石田コーポ、年150トンめざす

グループ会社で青果物栽培を展開する建築資材卸の石田コーポレーション(鳥取県米子市)は、

「サツマイモ」紅はるか」の香港への本格的な輸出に乗り出す。今春から香港で人気が高い小ぶりのサイズのイモの栽培を始め、5年程度をメドに年間150ト規模への輸出拡大を目指す。サツマイモの国内需要は減少傾向で、国外の販路開拓で事業拡大を図る。



香港では小さいサツマイモの(左)の(右)の一般的な国内向けのサイズ

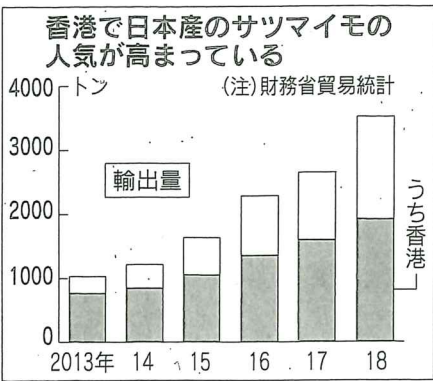
鳥取産PR 海外に活路

食べ方が定着しているという。

同社はグループ会社の富ますシルクファーム(同市)で2014年から地域の耕作放棄地を活用してサツマイモの栽培を展開。18年3月期には6畝で約200トを収穫している。

右田コーポレーションによると、日本で焼き芋に適したサイズは2000g前後だが、香港では1000g程度の小ぶりのサツマイモを炊飯器で蒸す

日本食材を扱う香港の商社の味珍味と18年11月に輸出に関する契約を結び、試験輸出を始めた。19年3月までに、収穫したイモから小さいサイズ



国内消費 減少続く

一方、国内のサツマイモの消費は長期に渡って低落傾向を続ける。農林水産省のまとめによると、全国の生食用サツマイモの消費量は1990年の約62万トから2016年には約41万トまで減った。

輸出の先として香港は有力な市場だ。財務省の貿易統計によると、サツマイモの輸出量は13年の1029トから18年には3519トに増加。18年の輸出先で最多だった香港が半数超の1921トを占めた。

キユアリングという工程を施すことで、保存性を高める手法を導入している。今後の国内外の販路開拓を見据え、18年10月にキユアリング後のイモを貯蔵する施設も新設し、従来の倍となる200トまで貯蔵可能となった。

同社グループは観光名所の水木しげるロード(鳥取県境港市)にサツマイモのスイーツ店2店を進めている。主に訪日外国人にイチゴやサツマイモの収穫体験を楽しんでもらう観光農園(米子市)を3月にも開業する予定で、独自の6次産業化を

(山本公啓)